備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和46年度～	根拠法令・例規等		三石財産区管理会条例 三石財産区基金条例
総合計画	大項目	基本目標	06	健全で自立したまちづくり	
	中項目	基本施策	01	簡素で効率的な行財政運営	
	小項目	施策	12	その他事務管理（財産管理）	
事務事業名			08	三石財産区管理事業	

問合先	担当課（室）	財政課
	職・氏名	財産管理係長　河井　健治
	電話	0869-64-1811
このシート作成に要した時間		1.5　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	三石財産区が保有する財産及び区域内の市民
目的（何のために）	三石財産区が保有する財産の適正な管理並びに運用を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	三石財産区の良好な運営を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
管理会運営業務	三石財産区の適正な運営を行うため、管理会を４回開催して審議を行った。	◎
財産維持管理業務	保有地の維持管理のため草刈り業務を委託し、老朽化した駐車場の街灯を改修した。	○
財産区基金管理業務	基金預金利子及び償還金の積立等の事務処理を行った。	○

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	1,504	1,773	1,844
	必要人員人件費		0.03人 281	0.10人 898	0.12人 979
	事業費計		1,785	2,671	2,823
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		1,785	2,671	2,823
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	保有財産草刈延人数	説明	財産区が保有する財産の維持管理のため、草刈り作業に要した人員		
	結果指標量	人	134	183	153
	対前年比	%	－	136.6%	83.6%
	活動コスト	円	1,785,000	2,671,000	2,823,000
	単位当たりコスト		13,321	14,596	18,451

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
維持管理適正運営	目標値（A）	2,000	2,000	2,000	2,000
	実績値（B）	1,577	1,967	2,373	到達目標値
	達成率（B/A）	78.85%	98.35%	118.65%	2,000

成果指標設定の考え方・式や説明

財産区の財産の維持管理は、歳入の範囲での実施に努めるべきである。（歳入－歳出＞2,000千円）

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：財産区が保有する山林並びに駐車場の貸付収入については、景気の低迷により増収が見込めない状況となっている。駐車場については不法駐車もあることから運営形態を検討する必要がある。

総合評価

地方自治法で認められた特別地方公共団体であり、継続して安定的な運営に努める必要があるが、社会情勢の動向により安定した収入が望めなくなってきている。継続して安定収入の確保に努めることが最重要となっている。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：駐車場に関しては、不法駐車等が見受けられることから運営形態を見直す必要がある。しかし、採算性を重要視して検討することが必要であり、費用対効果を検討して見直しに努める。